

7 研究協議の主な内容

(1) グループ協議の内容

【授業者より】

- ・情報を伝えたり、質問したりするための文章表現を学習する単元で、「三単現の文法」が学習の中心である。そこで、本単元の最初の時間に最終目標として「ウェルカムパーティーを開くこと」を設定し、学習を進めてきた。
- ・評価については、時間や学習活動のまとめりごとに最後の時間を「記録に残す評価」とし、それ以外を「指導に生かす評価」として行ってきた。本時は「指導に生かす評価」となり、次時はパフォーマンステストで「記録に残す評価」となる。

【研究内容（4） 観点ごとの総括】

- ・前時までのワークシートを参考に文章を作成する様子が見られるなど、手立てがしっかり練られていて良かった。
- ・評価規準をもっと具体的にすると見取りが明確になるのではないかと感じた。
- ・本時の目標を達成させるために使わせたい文法の意識付けをもう少し生徒に行ってから活動を始めると良かった。

【研究内容（3） 単元の指導計画・評価計画】

- ・本時は、最終時間のパフォーマンステストに向けたプレの授業で、適切に評価場面を設定したことで生徒の実態を把握し、次時に生かすことのできる授業になっていた。
- ・指導に生かす評価と記録に残す評価の位置付けは分かりやすかった。しかし、目標や評価が時間や学習活動のまとめりごとの記述だと1単位時間の学習内容が分かりにくい。

(2) 指導主事の助言

《上川教育局教育支援課義務教育指導班主査 望月 俊綱》

① これからの外国語科教育について

- ・今後は、小中高の指導方針をつなげた「コミュニケーションを図るための資質・能力を育成するための英語」の授業が展開できるとよい。
- ・本実践では、授業者が設定した最終ゴールに向かって生徒が学ぼうとする姿が見られた。このように単元を通して、生徒がゴールに向かって学びを深めていくことが大切である。

② 指導に生かす評価、記録に残す評価の位置付けについて

- ・学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすこと（指導に生かす評価）に重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価（記録に残す評価）は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容やまとめりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階など、その場面を精選することが重要である。評価の際には、記録を取ることで目的になってしまい、授業改善の視点が不十分にならないように注意しなければならない。
- ・外国語科においては、教科書で学んだ知識及び技能を活用して、自分の考えに基づいて、自分と相手以外の人について話したり、たずねたり、答えたりすることを目指していることから、単元やユニットの前半は指導に生かす評価を積み上げ、後半に記録に残す評価を行っていく評価計画を設定する事例が多くある。国立教育政策研究所の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』には、各教科の評価計画が例示され

ているので参考にするとよい。

③ 研究協議のあり方について

- ・今回の研究協議は、評価規準の妥当性と信頼性について、どのように高めていくかを考える事ができる内容だった。
- ・「この評価規準で良かったのか」、「どのような評価規準なら良かったのか」を校内で交流することで評価規準の妥当性や信頼性を高めてほしい。ただし、授業改善の目的に立ち返ったとき、評価のみを単独で考えるのではなく、身に付けさせたい力を明確にした単元づくりが根本にあることを再確認願いたい。

8 事後分析

(1) 単元における指導に生かす評価と記録に残す評価を位置付けた評価計画について

知識を相互に関連付けて思いや考えを基に創造する姿を目指すためには、資質・能力が活用・発揮される場面を図ることができるような指導計画が必要である。さらに、1単位時間ごとに適切に評価を行うことで、生徒の学習状況を把握し、その都度、指導の改善を行いながら指導計画を進めることが必要である。

本単元は、三人称単数現在の表現を学び、第三者についての説明や質問をできるようにする。これを基に、単元の最終目標である「新しいALTの情報を現ALTに質問し、ウェルカムパーティーを企画しよう」という学習に繋げる。これらの活動が、文法指導に止まらず、自己表現に結び付くため、前半は知識・技能、後半に思考・判断・表現の観点に重きを置き、評価を行った。時間や学習活動のまとめりごとの最後の時間や、単元終末のパフォーマンステストと単元テストを記録に残す評価とし、それ以外は指導に生かす評価とした。

単元を通して、指導に生かす評価を行ったことや単元の最終目標とそこに行きつくまでの単元の学習計画を生徒と共有した。それにより、生徒の学習状況を把握して指導計画を変更したり、生徒自身が学習を振り返り、自己調整を図ろうとする場面を見取ったりすることができた。具体的には、4時間目の「自分の家族の紹介をして、その人物について質問をしてみよう」という授業において、第三者について質問する表現の定着が不十分であったため、5時間目に学校の先生について質問をし、他の生徒に紹介する授業を盛り込んだ。また何について質問すればよいか分からないという生徒の実態も見取ることができたため、当初6時間目に予定していた「楽しいパーティーに必要なものを考えよう」という授業において、これまでの学校行事や実生活を想起させ、具体的な場면을イメージして質問や説明をすることを練習した。自己表現の場面を増やすことで、生徒の主体的に学ぶ姿勢が多く見られるようになったので、今後の指導にも生かしていく。

4	質問とスラスラする。 友達と自分の家族を 紹介し合い質問しよう。	春樹についての質問や 答えの内容が…	⑤・4・3・2・1 分かった 分からなかった
		新しいALTの先生のことを知れるようにする。	

4	友達と自分の家を紹介し 合い、質問はう。	春樹についての質問や 答えの内容が...	5・4・③・2・1
			分かった 分からなかった
		少しわからないところがあるからもう少し勉強ね。	

記録に残す評価は、ワークシートを用いた発表原稿による評価、zoomを用いたパフォーマンステストによるやりとりの評価、単元テストで4回行ったが、やりとりなどの聞く話す活動を単元を通して行っていたため、パフォーマンステストにおいては、大半の生徒が正しい表現で質疑応答することができた。また単元テストにおいても、いつも以上にできたと感じた生徒が増え、点数にも反映された。しかし、パフォーマンステストで話せていた表現を単元テストでは書くことができなかった生徒もいたため、単元の中に書く活動をより多く取り入れなければならないと感じた。

生徒Aさん（普段の指導に生かす評価では、教師の支援によりB）

8 本 時	校長先生の情報を聞き出す質問 をたくさん考えて、来週マーク先生に 必要な質問をするための 準備をしよう!	校長先生の情報をたくさ ん聞き出すことが...	⑤・4・3・2・1
			できた できなかった
		質問することができてよかった。	

【単元テスト】

(2)	Does Ellen what study
(3)	Does he have how many books?

主体的に学習に取り組む態度の評価においては、振り返りシートを活用し、評価をした。振り返りシートに書き込む内容は「本時の授業で分かったこと・分からなかったこと・もっと知りたいと思ったこと」としていたが、何を目的として書くのかを生徒と十分に共有していなかったため、記述が曖昧になってしまい評価資料として活用するには不十分なものとなってしまった。また理解できたかを5段階で自己評価させた場面で、3をつけていた生徒に対して、個別の指導や具体的な解決策を実施することができなかった。粘り強さを見取るためには、分からなかった内容の克服に向けてどのように取り組んだのかを把握する必要がある。

生徒Bさん（普段の指導に生かす評価では、教師の支援によりB）

4	友達といふ人のかまぐちを 紹介し合ひ質問してはう。	春樹についての質問や 答えの内容が...	5・④・3・2・1
			分かった 分からなかった
		likes	

調整力を見取るための取組としては、毎時間の授業のやりとりの中で指導した内容が、次時にどのように改善されているか見取れる言語活動を用意し、評価することが必要である。

単元を通して、全体的な傾向として英語の言語活動への学習意欲は高く、単元の学習計画を生徒と共有することで、自己の課題を振り返り解決に向けて取り組むことができることが分かった。

7	電話の受け答えが できる	電話出だしの会話の 方が...	⑤・4・3・2・1 分かった 分らなかった
		マーク先生のために、便えるから 完璧にしたい。	

(2) 本時における見取り方とその判断について

本時の目標は、「校長先生の情報聞き出す質問をたくさん考えて、マーク先生に必要な質問をするための準備をすることができる」である。単元を通して、導入場面でターゲットセンテンスを習得するために、ラインゲームや身振り手振りをを用いた活動を繰り返し行った。本時がパフォーマンステストに向けたプレ授業であったこともあり、時間をかけて行ったが、その反面で主活動の時間が短くなってしまった。

本時における評価については、次時に向けて指導に生かす評価を行った。評価場面の言語活動では、時間が足りなくなってしまったため、T1とT2でそれぞれ生徒の表現を見取り、授業後に生徒の学習状況を共有した。この言語活動においては、校長先生について知りたいことをたくさん質問することが目標であったが、表現の幅が広がり過ぎて、“Does he like ○○?”や“What ○○ does he like?”というターゲットセンテンスの習得に迫りきることができなかった。生徒の振り返りの中では、「校長先生の意外な一面が知れて楽しかった。」という感想もあったため、どこまで表現の幅を広げるかを考えることで、今後の授業改善に生かしていきたいと考える。

評価の視点については、言語活動の場面において「聞きたいことを、自然な会話の流れと正しい表現で質問し、リアクションすることができる。」としていたが、指導教諭との一問一答のようになってしまったため、正しく評価することができなかった。評価の視点を生徒と共有し、既習の表現を想起させるなどしながら、言語活動に取り組みさせることができれば良かった。

8 本 時	校長先生の情報聞き出す 質問をたくさん考えて、 来週マーク先生に必要な 質問をするための準備をしよう。	校長先生の情報たくさん 聞き出すことが...	⑤・4・3・2・1 できた できなかった
		校長先生の意外な ところが見れた。	

8 本 時	校長先生の情報聞き出す 質問をたくさん考えて 来週マーク先生に必要な質問を するための準備をしよう。	校長先生の情報たくさん 聞き出すことが...	5・4・ 3 ・2・1 できた できなかった
		もう少し不安なところがあるから 勉強する	